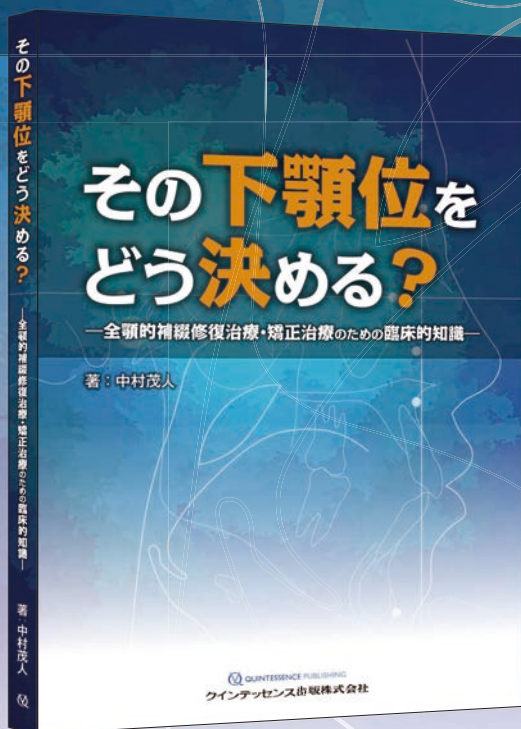


咬合に問題を抱える症例において「適正な下顎位」を見つけるための一冊

その下顎位を どう決める？

—全顎的補綴修復治療・矯正治療のための臨床的知識—



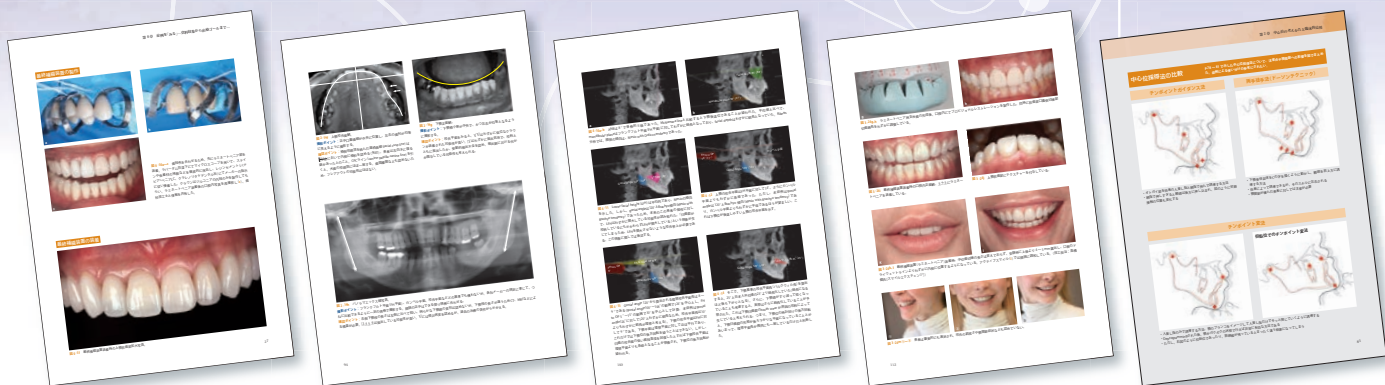
再治療を繰り返してきた咬合難症例に遭遇したり、できる限り再治療に至らせない歯科治療を行うためにどうすればよいのか——。

本書はその答えの一つとして、著者がこれまでの臨床経験で培ってきた「適正な下顎位の考えかた」を中心に、症例の「みかた」と実践方法、臨床例を紹介する。

著：中村茂人

東京都中央区開業
デンタルクリニックアレーズ銀座 院長・理事長 博士(歯学)

日本臨床歯科学会(SJCD)東京支部理事、
OJ常任理事、ITIメンバー
日本歯周病学会、日本臨床歯周病学会、日本顎咬合学会



QUINTESSENCE PUBLISHING
日本

●サイズ:A4判 ●228ページ ●定価14,300円(本体13,000円+税10%)

クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 <https://www.quint-j.co.jp> e-mail mb@quint-j.co.jp



CONTENTS(抜粋)

第0章 症例を「みる」—資料収集から治療ゴールまで—

Case 0 審美と機能の両立を目指した症例

Column 0 セファロ分析の基礎知識と本書における考えかた

第1章 顎位の問題が引き起こすさまざまな症状

1-1 顎口腔系崩壊の機序

Column 1 なぜ、成長期の口呼吸が顎位に影響を与えるのか?

1-2 顎偏位によるTrauma が引き起こす口腔系の問題

1-3 顎関節に起こる変化

第2章 中心位の考えかたと臨床的応用

2-1 中心位に関する議論の変遷

Column 2 中心位の歴史の検証

2-2 下顎安静位とDeprogramming

2-3 中心位採得の実際

Case 2-1 極端な下顎後退をDeprogrammingや矯正治療などによって骨切り手術を回避して改善できた症例

Case 2-2 下顎偏位が顎口腔系の崩壊に関与していたと思われる症例

第3章 顎位が安定しやすい理想咬合

3-1 歯の保存と咬合関係

3-2 理想的な歯の位置と形態

3-3 機能から考える歯の位置と形態

Case 3-1 切歯路角を考慮した前歯部審美修復症例

Case 3-2 矯正および補綴治療の併用により機能美を確立した症例

3-4 Gonial angleと下顎位の変化しやすいパターンから見極める理想咬合

第4章 症例供覧

Case 4-1 水平・垂直的下顎位を変換した症例

Column 3 咬合再構成と気道

Case 4-2 咬合高径の挙上に苦慮した症例

Case 4-3 咬合高径を下げた症例

第5章 経過症例から振り返る

Case 5-1 全顎的な再補綴を利用し顎位を整えた症例の約11年経過

Case 5-2 矯正およびインプラント治療で開咬を改善した症例の14年経過

Case 5-3 咬合平面の改変によりフェイシャルプロポーションを改善させた症例の5年経過

きりとり線

注文書

その下顎位をどう決める?

—全顎的補綴修復治療・矯正治療のための臨床的知識—

モリタ商品コード:208040966

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。